

市響

第437回「ファミリー交響楽」

指揮：大勝秀也

2024

12/8 日

14:00開演 (13:30開場)
市川市文化会館大ホール (JR総武線・本八幡駅下車)

管弦楽：市川交響楽団

主催：市川交響楽団協会 共催：市川市 共催：公益財団法人市川市文化振興財団 市響ホームページ：<http://ichikyo.org/>
協力：山崎製パン株式会社 株式会社全日警 株式会社伊藤楽器 後援：千葉交響楽団協会

本日のプログラム

ベルリオーズ/序曲「ローマの謝肉祭」(約10分)

ファリャ/「三角帽子」第2組曲(約15分)

1. 「近所の人たちの踊り」
2. 「粉屋の踊り」
3. 「終幕の踊り」

🎵 休憩(20分)

ベルリオーズ/幻想交響曲(約55分)

- 第1楽章「夢、情熱」
- 第2楽章「舞踏会」
- 第3楽章「野の風景」
- 第4楽章「断頭台への行進」
- 第5楽章「魔女の夜宴の夢」

終演予定 16:00

プロフィール



指揮／大勝秀也(おおかつ・しゅうや)

東京に生まれる。東京音楽大学指揮科卒業後、1988年ドイツに渡り、ボン市立歌劇場のアシスタントとして多くのオペラを指揮。91年ゲルゼンキルヒェン市立歌劇場第一指揮者、94年よりボン市立歌劇場第一指揮者として契約。96年にはボン歌劇場海外公演を指揮。96年7月、マルメ歌劇場音楽監督に就任。99年には同歌劇場管弦楽団とCD「バーンスタイン：ウエストサイド物語／ストラヴィンスキー：火の鳥」をリリースし、スペイン公演を指揮する等、ドイツを中心にヨーロッパで活躍。

オペラ以外には、ボン・ベートーヴェン・ハレ管、北西ドイツ・フィル、ザグレブ・フィル等と共演。95年、シュトゥットガルト室内オーケストラとアメリカ、オーストラリアにてツアーを指揮。国内では、99年6月NHK交響楽団定期演奏会を皮切りに、新日本フィル、群馬交響楽団、京都市響、大阪フィル、九州交響楽団、二期会ほかと共演。特に関西二期会では《ルチア》、《ばらの騎士》、《タンホイザー》、《ノルマ》等多くを指揮し、正統ドイツの薫り豊かな指揮が高く評価されている。

2006年6月／07年5月ポリショイ劇場で《トスカ》を指揮し好評を博す。06年ポーランドで森麻季(ソプラノ)とレコーディングを行う。11年12月に金沢、高岡、翌年1月には新国立劇場にて、泉鏡花原作、池辺晋一郎作曲の「高野聖」を初演。12年10月大阪でフェラーリ作曲のオペラ《イル・カンピエッロ》を上演、13年12月いずみホールで演奏会形式による、モーツァルト《イドメネオ》を指揮。びわ湖ホールでは、14年2月に《ホフマン物語》、12月に《天国と地獄》、15年12月にはドヴォルザーク《ルサルカ》を上演、好評を博した。また、17年秋には全国共同制作オペラ《トスカ》を新潟、新川(富山県)、沖縄で指揮、22年2月日本オペラ協会《ミスターシンデレラ》を好演している。現在、昭和音楽大学講師。

本日は色彩感ある華やかなオーケストラサウンドをお楽しみください。それは弦楽器群に加えて、木管楽器は華やかさを、金管楽器はエネルギー感を、打楽器はリズムカルさとアクセントを、ハーブはキラキラを、といった様々な音色の組み合わせが加わることで生まれます。また森の中の静けさから、打ち上がる花火や群衆の叫びまでのダイナミックな音量の変化。そして高ぶった感情のエネルギーから斬新で美しい響きへと変化する和声の流れに溢れています。

ベルリオーズ / 序曲「ローマの謝肉祭」

フランスの作曲家ベルリオーズは色彩感ある華やかなオーケストラサウンドの代表的一人で、41歳のときに『管弦楽法』を出版し、後の音楽界に大きな影響を与えました。

序曲「ローマの謝肉祭」はオペラなどの序曲ではなく、演奏会序曲と呼ばれる単一楽章の中にストーリーや場面描写のある管弦楽曲です。謝肉祭はカーニバルとも呼ばれ、カトリックで肉食を控え禁欲的な「断食」を行うその直前に思いっきり羽目を外す風習が起源のお祭りです。中間部のコールアングレやヴィオラの歌い込みが深ければ深いほど、前後の華やかな乱痴気騒ぎが引き立ちます。



ベルリオーズの大型規模オーケストラを風刺した絵

ファリャ / 「三角帽子」第2組曲



ファリャ (1876-1946)

ファリャはベルリオーズよりも70年以上後に生まれました。生涯母国スペインを愛し、スペインを題材にした曲を多く残しています。フランスで学び、デュカス、ラヴェル、ドビュッシーとも親交を結んだ彼の作品は、軽やかで歯切れのよい心踊るのが特徴です。

この曲はバレエ音楽からの抜粋で、「三角帽子」をかぶった代官が粉屋の女房の色っぽい踊りに目を奪われに横恋慕します。1. 近所の人たちの踊りは聖ヨハネ祭を祝う踊りです。1つのメロディにどんな楽器が重なっているか気にしながら聴いてください。2. 粉屋の踊りは夫の踊りです。弦楽器の和音はまるでフラメンコギターの様です。ファゴットで演奏される好色な代官は最後には住民たちにボコボコにされてます。3. 終幕の踊りは悪代官を凝らしめた村人たちの喜びに溢れ、粉屋夫妻はハッピーエンドというストーリーです。



ピカソによる初演の舞台美術



アメリカ初演でダリが担当した代官の衣装

ベルリオーズ / 幻想交響曲

「ある芸術家の生活のエピソード」と副題のあるこの交響曲は、作曲者自身の失態体験を題材にした標題音楽です。それは恋の悩みに苦しんで服毒自殺を図った若い音楽家が、アヘンの量が足らずに苦しみながら見た幻想です。まどろみの中のようなイントロから始まる第1楽章「夢、情熱」で主人公は目の前に現れた女性に燃えるような感情と、胸を締めつけるような思いに駆られます。長いイントロの後にヴァイオリンが絡み合うフレーズは市響ヴァイオリンパートの腕の見せ所です。第2楽章「舞踏会」での再開。彼女はざわめきの中でもひとときわ輝いています。2台のパープが加わり、ファゴットは休みです。二人はすぐに恋に落ち、第3楽章「野の風景」心安らぐ田園地帯で暮らします。2人の羊飼いの呼応（コールアングレとオーボエ）は2人が育んだ愛のようです。ところが若い音楽家の高い感受性がそれを邪魔します。主人公の不安を表すように遠くの雷鳴がだんだん近づき、羊飼いの呼応を途切れさせます。雷鳴は4台のティンパニ、4人の奏者で立体的に表現されています。その夜、訳なき不安を抱えた音楽家は恋人を殺してしまいます。死刑宣告を受け第4楽章「断頭台への行進」へと引き立てられ、大勢の観衆の目の前でギロチンにかけられ首がコロんと切れ落ちます。主人公の葬儀では第5楽章「魔女の夜宴の夢」が繰り広げられます。ケックケック、ヒヒヒヒ、ワッハッハッハ、ゲロゲロゲロゲロ、ケタケタ、ギャーの中、愛する彼女の旋律がグロテスクに現れてロンドを踊ります。お巾の鐘と葬儀の歌。狂乱の内に曲は終わります。この曲が書かれたのはベートーヴェン第九の初演6年後というから、多彩な楽器編成によるサウンドの先進性に驚かされます。



作曲当時のベルリオーズ



ベルリオーズが恋に落ちた女優ハリエット・スミスソン、後に結婚した

市川交響楽団協会 (いちかわこうきょうがくだん協会)

市川交響楽団協会は昭和26年(1951)7月に発足し、千葉県内に健全な純音楽の普及と啓蒙をはかり、クラシック音楽の愛好者層を増し、平和な潤いのある生活がみちあふれる事を願う文化団体です。しかも音楽の中で最も強力に共鳴感を起させるシンフォニックな楽団の育成と、その演奏活動の実践を容易ならしめるための社会教育団体でありまして、利益を得る団体でも、ただ自分中心の趣味だけを満足させる同好会でもありません。

自分達のクラシック音楽を表現する喜びを少しでも多くの人に分け与えようとする奉仕団体として、地元市川市を本拠地に演奏活動を行っております。当協会は、市川交響楽団、市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、市響ジュニアオーケストラ、行徳混声合唱団の演奏5団体および市響ジュニア育成会によって組織されております。

平成21年(2009)2月にはこれまでの60年近くにわたる演奏活動と、今後の永続的な展開を期待され、市民の推薦による市川市民芸術文化奨励賞を受賞しました。

「市川交響楽団協会」は平成30年(2018)11月に商標登録を行いました。(登録第6103031号)

市川交響楽団幹事長時田雄は兼務する千葉交響楽団協会理事長として令和4年度千葉県教育功労賞(文化芸術の部)を受賞しました。千葉県内のアマオケ活動の展開のなかで地域音楽文化振興の活動についての評価をいただいたものと理解しています。

【コンサートミストレス】

皆合愛子
立田祥子

【第1ヴァイオリン】

石崎俊信
大橋一郎
大橋かおる
桑原啓輔
佐藤薫
佐分利幸江
萩原詩織
羽深理絵
細貝春
溝田範子
渡辺綱介
渡辺惟

【第2ヴァイオリン】

岩田徳子
滝澤葉子
富田八江子
中島雪香
服部恵子
早川貴子
秦一宜
牧田太郎
武藤敦子
森郁子
柳澤敦子
山本芳功

【ヴィオラ】

石本恵理
内田綾美
谷口舞
谷口善樹
奈良林弘子
本郷尚子
畑英史

【チェロ】

泉谷良枝
岩田理人
倉澤倫子
中村公一
日澤優
福原耕二
八重樫妙子

【コントラバス】

池田和正
石坂裕美
入村尚美
上村啓介
神代順子
番場仙嘉

【フルート】

秋山愛美
佐藤洋行
二木陽子

【オーボエ・イングリッシュホルン】

白木広美
二村直子
古澤恵子
本間広樹

【クラリネット】

赤井美奈
秋永直美
井垣貴嗣
時田雄
半藤嗣人
八木良子

【ファゴット】

遠藤由紀子
金坂哲
深町幸世
山内静

【ホルン】

井村公子
嶋村恒夫
武井綾香
藤井茂司

【トランペット】

田崎真二
新井本昌宏
羽賀裕輝
八木巧次

【トロンボーン】

石黒弘道
藤平一仁
藪崎裕至

【チューバ】

永堀裕子
渡邊鐵雅

【打楽器】

篠崎美奈子
鈴木充
田中康信
都筑裕
時田裕
和田英恵

【ピアノ&チェレスタ】

畠野葵

【ハープ】

大木理恵
本間美貴子

【副指揮】

西上純平

